

 コスモ石油株式会社

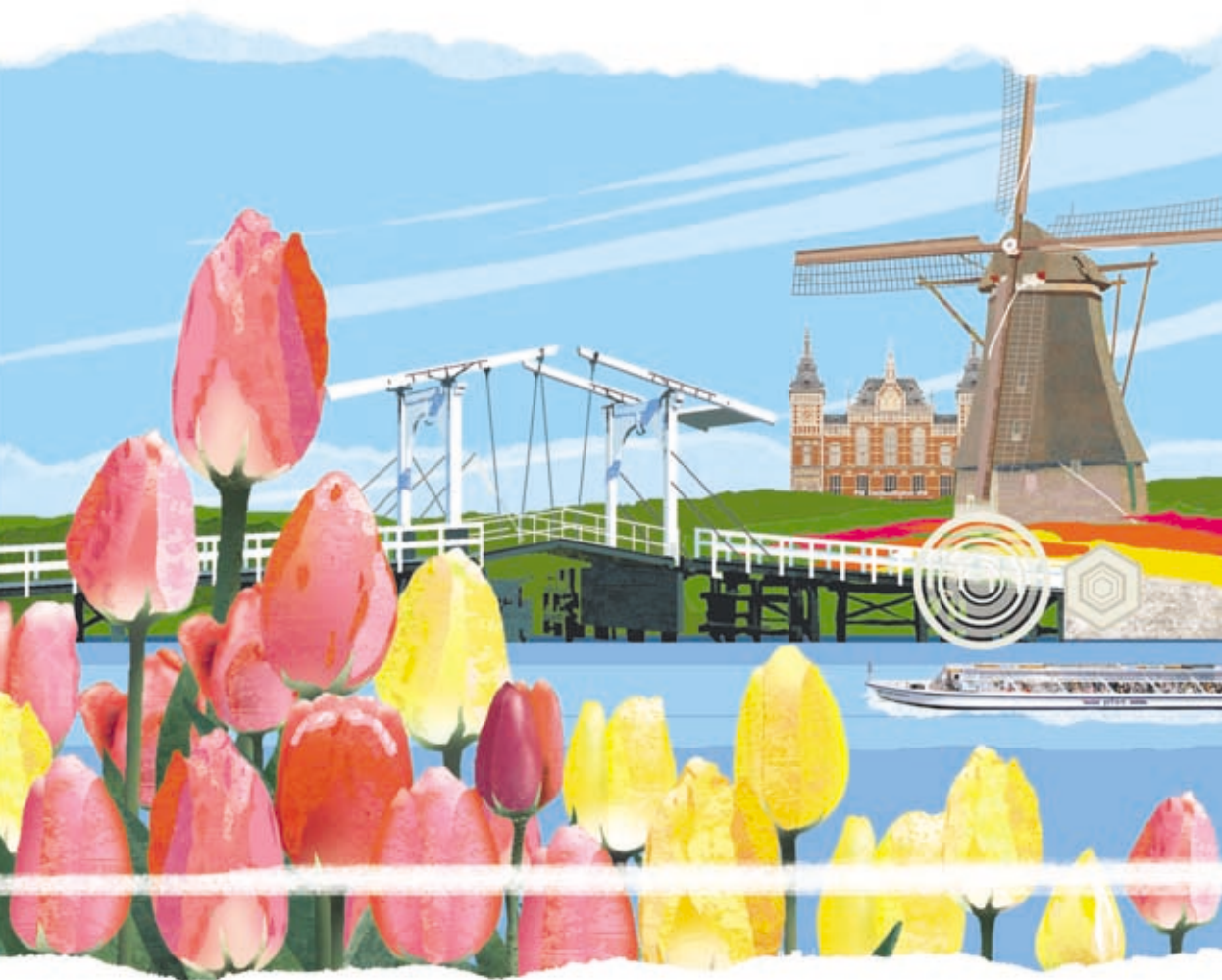
C ' S M A I L

VOL. 61

株主通信《シーズ・メール》SPRING 2009

第103期 第3四半期 事業のご報告

平成20年4月1日～平成20年12月31日





日本経済新聞社 編集局 アジア部長

後藤 康浩氏

Yasuhiro Goto

コスモ石油株式会社 代表取締役社長

木村 彌一

Yaichi Kimura

収益基盤の再構築を図るとともに 次の成長への布石を打ち 企業価値の向上をめざします

今回は、日本経済新聞社 編集局 アジア部長の後藤康浩様をお招きして、国内外の経済事情やエネルギー事情、コスモ石油の成長戦略などについて、当社の木村社長と意見交換をしていただきました。

アジア経済圏における 石油市場

木村▶現在のアジアの経済状況について、後藤さんはどのようにご覧になっていますか？

後藤▶そうですね、まず、昨年夏のアメリカの金融危機に始まり、それが実体経済にも波及し、現在、アジアに深刻な影響が出ています。アジアの国々は、欧米への輸出による外需依存型の経済で成長してきたため、欧米市場の落ち込みが非常に大きく響いています。アジアの中でも、日本やシンガポール、韓国といった先進国では成長率がマイナスまで鈍化していますが、中国やインドには成長の余力がある

だけでなく、国内消費の伸びも期待されています。

木村▶今後のアジア経済の回復についてはいかがでしょう？

後藤▶大きな要素が2つあると考えています。1つは、中国をはじめ、インド、韓国、日本などの政府が財政出動をしており、この効果がいつ頃出てくるかということ。もう1つは、やはり原油価格です。去年7月に米原油先物価格は140ドル台に達しましたが、年後半は一気に落ち込み、現在も50ドル前後（3月25日現在）で推移しています。アジアの多くの国は原油の輸入国ですから、原油価格の下落は大きなプラス要因になると考えられます。総合的に見れば、アジ

ア経済は、世界の中でも一番先に立ち上がると私自身は見ています。早ければ今年の下半期、遅くとも来年春までに底打ちし、反転して上昇に向かうと考えています。

木村▶なるほど。では、原油価格は、どのあたりで落ち着くとお考えですか？

後藤▶1970年代の2回のオイルショックと、86年からの逆オイルショックのおよそ15年間を見てみましょう。まずオイルショックが起きて30ドル台に高騰し、やがて半分の15ドル台で長期的に安定しました。歴史から学ぶということならば、原油価格高騰後の価格は、1バレル140ドル台の半分、70ド

アジア経済は、この先、
世界の中でも一番先に立ち上がる
と私自身は見えています。



●後藤 康浩氏プロフィール
早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、1984年日本経済新聞社入社、中東、欧州、中国駐在、論説委員を経て2008年から編集局アジア部長。主な著書に「勝つ工場—モノづくりの新日本モデル」日本経済新聞社など多数

ル台というのが落ち着きどころではないでしょうか？

木村▶国内の石油製品の需給バランスについては？

後藤▶ここは現実を直視しなければいけないと思います。地球温暖化対策ということで、自動車の燃費は向上しますし、また産業用の燃料に関しても、日本の製造業の多くは積極的な省エネを進めていますから、石油製品の需要は低下するでしょう。ただ、日本の石油会社にとって、マーケットは日本国内だけではありませんし、日本国内でも事業の多様化によって成長の道を見つけることが可能であると私は確信しています。

木村▶全く同感ですね。

後藤▶石油業界再編の動きは、どう受け止めていますか？

木村▶当社は、産油国が母体であるIPICとの事業提携・資本提携を通じて、言わば、垂直連携を展開しているわけですが、一方で国内の提携についても全く背を向けるというのではなく、まず販売網や製油所を強化し、効率性を追求する協業化など個別の良い話があれば検討したいと考えています。

収益基盤の再構築と 次の成長への布石

後藤▶コスモ石油は、第3次の連結中期経営計画を推進していますね。

木村▶はい。2008年～2010年度の経営計画で、今年度は2年目になります。収益基盤の再構築と、将来の成長戦略に取り組むという2つのテーマを設定しています。

後藤▶それは、具体的にはどのような内容ですか？

木村▶コアの事業は石油精製・販売事業ですが、国内需要が減ってきていますので周辺事業である石油化学にも取り組む必要があります。そして上流と下流を一貫体制にして効率的な経営ができるよう、上流の原油開発を充実させていく必要もあります。また、一昨年IPICと資本提携・事業提携をしましたので、共同事業の実現も大きなテーマです。

石油の安定供給に向けた 原油開発の取り組み

後藤▶では、まず原油開発について伺いたいと思います。

海外の安定した販売網を確保し 環境変化を見ながらメリツトの 最大化を図っていきます。



コスモ石油株式会社
代表取締役社長
木村 一

いてはいかがですか？

木村▶ ご存じのように、国内の需要が減っていく中で、私たちは「良質のシェア」と言っていますが、当社の収益性につながる質の良いシェアの拡大をめざしていきます。

後藤▶ 質の良いシェアというのは、きちんと利益につながるシェアを押さえていくということですね。

木村▶ はい。当社の販売子会社を中核に、販売戦略を理解し、ともにパートナーシップを組むことができる地場特約店と合わせて、SSでのガソリン・軽油販売量の51%の比率をめざしていますが、この良質のシェアを増やすには、ブランド力が重要です。私たちは今、お客様に愛され、信頼されるブランドをめざして、「“ココロも満タンに”宣言」という活動を展開しています。これは、セルフSSやコスモ・ザ・カード、洗車や車検を行うカーケアサービスの提供などに加えて、安心や責任を重視したCSRを織り込んだ活動です。

後藤▶ “ココロも満タンに”というのは、イメージ戦略として

木村▶ 当社は、低リスク案件に注力し、早期に投資回収することを原油開発の大きな方針としており、中東のアブダビやカタールをコアエリアに、またオーストラリアをサブコアエリアとしています。現在、アブダビとカタールでは安定した生産を行っています。開発の特徴としては、オペレーターシップと言いまし、自ら操業することで技術やノウハウを蓄積しています。

後藤▶ 1968年から操業されているアブダビ石油の事業が、独自の技術やノウハウの蓄積につながっている訳ですね。カタールの生産量は伸びているのですか？

木村▶ ええ。まず1万バレル／日を目標に、来年度、新しい油田からの生産を計画しています。現在、自主開発原油の総量は3万バレル／日弱ですが、今後はカタールの新しい鉱区や、オーストラリアの鉱区の開発を推進し、ベストケースとしては、2012年に4万7千バレル／日に達する絵を描いています。

「“ココロも満タンに”宣言」で、
良質なシェアの拡大をめざす

後藤▶ 石油製品の国内販売につ

シーズ・メール対談

も成功していると思います。環境に優しい、人間に優しいという感じを、うまく表現できていると思いますね。

製油所設備の高度化と海外販売で 安定的な成長市場を確保

後藤▶ 国内市場はかなり成熟化していますが、海外販売についてはいかがでしょうか？

木村▶ 2000年あたりから本格的に取り組んできましたが、海外販売を行う以上は、将来につながるような、安定した販売網をめざしていこうと考えました。当社の海外販売は、大手企業などの顧客と直接契約をしていることが強みだと考えています。また、硫黄分10ppm以下の品質の高い製品を生産できますので、環境規制の厳しい米国西海岸や豪州などに販売できることも強みです。

後藤▶ アジア市場に関してはいかがですか？

木村▶ そうですね、経済成長や人口の増加を考えると、中国やインドも有望なターゲットですね。実績は重油の販売などまだ限定的ですので、今後取り組みを強化していきます。

後藤▶ 最近、製油所設備の高度化を進めておられますが、それは海外販売とはどのような関係がありますか？

木村▶ 重油の需要減など市場の変化に対応する必要があり、重質油分解装置の導入による精製工程の高度化を行っています。これにより、ニーズの少ない重油を分解して、ニーズの高い軽油や灯油をつくることができ、海外向けの軽油販売の強化につながっています。もう一つの目的は、現在の製品の生産比率を維持したまま、安い重質原油を調達することでコストの低減を図ることです。市場環境を見ながらメリットの最大化を図っていきます。

IPICとの提携でアラブ首長国連邦 とのパートナーシップを強化

後藤▶ IPICとの提携についてはいかがですか？

木村▶ 効果を出すための布石として、IPICへの第三者割当増資を行い、資本を増強しました。これにより、財務体質が改善され、今後の成長戦略への投資が行いやすくなりました。現状では、IPICが出資している韓国の

ヒュンダイオイルバンクと石油事業包括協力覚書を締結し、国際的な製油所の供給体制の最適化と、アジアをターゲットとしたマーケティング協力による相互発展に向け検討を重ねています。これに限らず、一日も早くIPICとの共同事業案件を実現させたいと考えています。

後藤▶ 現在、金融危機が続いている中で、財務体質を改善したことは、有意義でしたね。

食糧問題にも貢献する ALA事業の展開

後藤▶ 国内の石油市場が成熟化する中で、新しい事業が成長の母体になると思います。新規事業について伺いたいと思いますが、まずはALA事業の取り組みについて教えてください。

木村▶ ALA事業は、石油以外の新しいビジネスの展開をめざして、1980年代後半に着手したアミノ酸の事業です。環境分野で、しかも私たちのノウハウや知見のある分野、ということで取り組みをスタートさせました。ALAが植物などの成長に影響を与えることに注目し、成長促進効果があることを発見しまし

た。また、従来は製造が難しいため非常に高価でしたが、当社の研究所がALAを安価に大量生産する方法を発見し、2000年に特許も取得しています。

後藤▶現在は、肥料として製品化されていますね。

木村▶そうです。国内でも販売していますが、むしろ欧州で、ホップやパプリカなどの肥料として利用いただいています。今後は、市場の大きい中国や米国もターゲットにする予定です。

後藤▶肥料以外にも用途はありそうですね。

木村▶家畜用の飼料としての用途もあります。もう1つは、育毛ですね。

後藤▶髪の毛ですか？

木村▶はい。今、医薬部外品として認可を取ろうとしています。また他社とも協力して医療分野にも取り組んでいます。これは、まだ時間がかかると思っています。

環境に優しいエネルギー事業、集光太陽熱発電やバイオマスへの取り組み

後藤▶新たなエネルギー事業として、集光太陽熱発電に取り組まれているそうですが？

木村▶集光太陽熱発電は、今の太陽光発電よりも発電コストが有利だと言われています。太陽光を鏡で集めて蓄熱し、蒸気タービンで発電します。

後藤▶ということは、夜でも、余熱で運転を続けられる訳ですね。

木村▶はい。中東のサンベルト地帯などに適しているようです。アブダビなどの産油国は、太陽エネルギーは内需に使う、地下資源は消費国へ輸出するというコンセプトを持っていますね。私たちはアブダビのマスターと共同事業契約を結び、両社がプロジェクトオーナーとなって、東京工業大学の技術を活用させていただきながら今年の12月に実証実験プラントを完成させる予定です。実証実験プラントの建設は三井造船さんをお願いしています。ここでノウハウや技術を得た上で、さらに大きなプラントを造ろうと考えています。

後藤▶従来の太陽光発電のパネルとは、ちょっと違う技術分野ですから面白いですね。油田開発で長年の付き合いがあるアブダビだから、コスモ石油を信頼してパートナーに選んだという

こともあるのでしょうか。バイオマスに関しては、いかがですか？

木村▶パプアニューギニアで、食糧にならない雑草の茎からバイオエタノールを生産する技術を研究しています。当地では、環境支援活動を以前から行っていまして、荒廃地を農地に転用する計画です。

個人株主の皆様へ

後藤▶最後に個人投資家に向けたメッセージは何かありますか？

木村▶現在、国内需要は減少していますが、1次エネルギーの約半分は石油です。また、世界の人口は2050年には90億人になるという見通しもあり、石油需要は増加すると考えています。私たちは、今後も石油事業に軸足をおき、産油国との連携も踏まえて、エネルギーの安定供給に取り組んでいきます。当社は、ステークホルダーの皆様から期待される企業であり続けるために、企業倫理の遵守を前提に、安定した業績を確保することに努めていきます。今後も、変わらぬご支援をお願いします。

第103期(2009年3月期) 第3四半期連結累計期間 財務・業績のご報告



代表取締役会長(左)
岡部 敬一郎

岡部 敬一郎

代表取締役社長(右)
木村 彌一

木村 弥一

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第103期第3四半期連結累計期間(2008年4月1日～12月31日)の財務・業績の概要についてご報告いたします。

2008年度第3四半期連結累計期間の 事業概要について

当第3四半期連結累計期間(以下、当第3四半期)における石油業界を取り巻く環境としては、原油価格は期初より高騰を続け、夏以降に急落したものの、当社の原油受入コストは1バレル101.28ドルと前年同期比29.27ドル上昇しました。一方、為替は1ドル104.66円と同12.63円円高で推移しました。

石油製品事業につきましては、製品市況は原油価格の急落に伴い下落しました。国内の販売数量は、ガソリン及び産業用燃料を中心に消費の抑制や燃料転換等により減少しました。コスモ石油単体の国内燃料油販売数量は、1,893万KLとなり前年同期比91.9%となりました。さらに原油価格等の下落に伴うたな卸資産の在庫評価の影響が売上原価を大幅に押し上げたこと等により減益と

なりました。一方、中間留分の輸出数量は前年同期に比べ101.2%と増加しました。

石油化学事業は、需要減に伴う販売数量の減少及びマージンの縮小等により減益となりました。

石油開発事業につきましては、販売数量は減少しましたが、原油価格が概ね高値で推移したことで業績は堅調でした。

この結果、当第3四半期の連結経営成績については、売上高2兆8,330億円（前年同期比2,925億円増）、営業損失1,057億円（同1,754億円減）、経常損失1,101億円（同1,832億円減）、四半期純損失821億円（同1,157億円減）となりました。

連結の財政状態につきましては、総資産は1兆5,039億円となり、前期末比1,240億円減少しました。これは原油価格下落に伴い、たな卸資産等が減少したことによるものです。純資産は3,706

億円、前期末比991億円の減少となり、自己資本比率は22.6%となりました。

2009年3月期 通期の見通し

通期の見通しにつきましては、2008年11月5日時点と比較し原油価格が下落したことに伴い、2009年1～3月の原油価格（ドバイ）を1バレル41.1ドル、為替を1ドル90.0円を前提として見直した結果、売上高3兆3,700億円（前回公表比6,600億円減）、営業損失1,100億円（同1,880億円減）、経常損失1,210億円（同1,960億円減）、当期純損失920億円（同1,110億円減）となる見通しです。

株主の皆様には、一層のご理解・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

■ 連結業績ハイライト

（単位：億円）

	2008年度 第3四半期	前年同期比
連結売上高	28,330	2,925
連結経常利益	-1,101	-1,832
在庫評価・低価格適用の影響	-1,555	-1,975
ネット連結経常利益	454	143
連結四半期純利益	-821	-1,157

「四半期業績のご報告」に関する適用初年度の対応について

当期から金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されました。適用される会計基準や用語等が当第3四半期と前第3四半期、前期で異なりますが、当社では数値の比較がしやすいよう財務項目を並べて記載することになりました。前第3四半期、前期末の数値やデータは、参考データとしてご確認ください。

■ 2008年度の業績予想

（2009年2月5日発表）

● 通期（2008年4月1日～2009年3月31日）（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	33,700	-1,100	-1,210	-920

● 受入原油価格、為替の前提

2008年度第4四半期（2009年1月～3月）前提

原油価格（ドバイ）=41.1US\$/バレル 為替=90.0円/US\$

業績予想の適切な利用に関する説明

本誌に記載されている業績見通し等の将来の記述は、2009年2月5日発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

要約四半期連結財務諸表

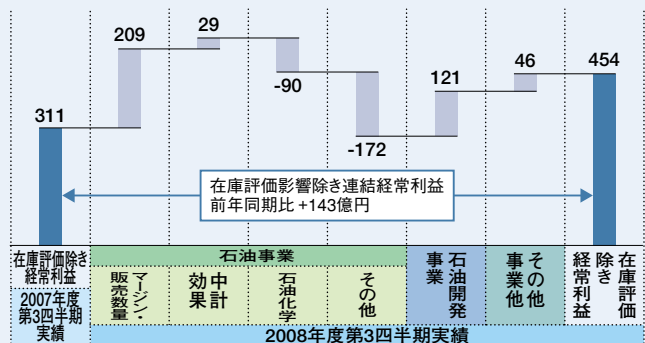
■ 要約四半期連結損益計算書		(単位:億円)
科目	当第3四半期 (2008.4.1~2008.12.31)	前第3四半期 (2007.4.1~2007.12.31)
売上高	28,330	25,405
売上原価	28,290	23,615
販売費及び一般管理費	1,097	1,093
営業利益又は営業損失	-1,057	697
営業外収益	89	167
営業外費用	133	133
経常利益又は経常損失	-1,101	731
特別利益	74	78
特別損失	35	42
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失	-1,062	768
法人税等	-274	397
少数株主利益又は少数株主損失	33	35
四半期純利益又は四半期純損失	-821	336

※要約四半期連結損益計算書の当第3四半期、前第3四半期は億円未満を四捨五入しています。
 ※当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

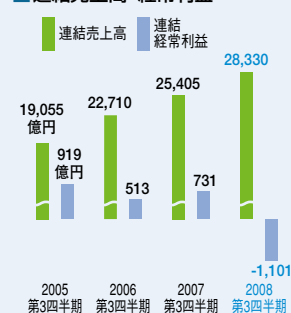
販売価格の上昇により増収 たな卸資産の在庫評価の影響等 により減益

当第3四半期の連結売上高は、2,925億円の増収、連結経常損失は1,101億円で前年同期比1,832億円の減益となりました。一方、在庫評価・低価法適用の影響1,555億円を除いたネットの連結経常利益は454億円で前年同期比143億円の増益となりました。この143億円の増益の主な内訳は、マージンの改善等で209億円のプラス、第3次連結中期経営計画による収益改善で29億円のプラス、一方で石油化学事業のマージン縮小で90億円のマイナス、自家使用燃料コストの増加等その他で172億円のマイナスなど石油事業で24億円のマイナス、石油開発事業は販売数量は減少しましたが、原油価格が概ね高値で推移したことで121億円のプラス、その他事業で46億円のプラス、その他事業他で46億円のプラスがあったことによるものです。四半期純損失は821億円となり前年同期比1,157億円の減益となりました。

■ 連結経常利益(在庫評価影響除き)前年同期比増減分析 (単位:億円)



■ 連結売上高・経常利益



■ 要約四半期連結貸借対照表		(単位:億円)
科目	当第3四半期末 (2008.12.31)	前期末 (2008.3.31)
資産の部		
流動資産	8,084	9,337
固定資産	6,955	6,942
有形固定資産	5,382	5,290
無形固定資産	120	98
投資その他の資産	1,453	1,554
資産合計	15,039	16,279
負債の部		
流動負債	7,805	8,120
固定負債	3,528	3,461
負債合計	11,333	11,582
純資産の部		
株主資本	3,229	4,120
評価・換算差額等	165	310
少数株主持分	312	268
純資産合計	3,706	4,697
負債純資産合計	15,039	16,279

※要約四半期連結貸借対照表の当第3四半期末、前期末は億円未満を四捨五入しています。

●資産の部

総資産は原油価格の下落に伴い、たな卸資産等が減少したことにより前期末比1,240億円減少しました。

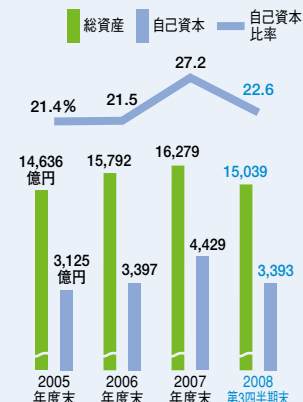
●負債の部

負債は原油価格が下落したことによる買掛金等の減少で249億円減少しました。

●純資産の部

純資産は前期末比991億円減少し、3,706億円となり、自己資本比率は22.6%となりました。

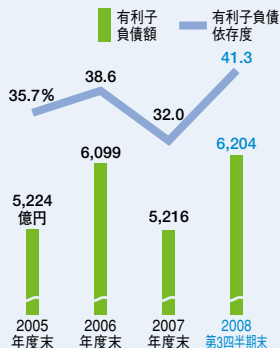
■総資産・自己資本/比率



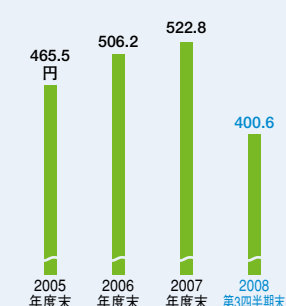
※2005年度末は株主資本、株主資本比率を記載しています。

※自己資本＝純資産－少数株主持分

■有利子負債額/依存度



■1株当たり純資産



※2005年度末は1株当たり株主資本を記載しています。

Consolidated Financial Statements

要約四半期連結財務諸表

■ 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書		(単位:億円)
科目	当第3四半期 (2008.4.1~2008.12.31)	前第3四半期 (2007.4.1~2007.12.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	-119	-508
投資活動によるキャッシュ・フロー	-427	-188
財務活動によるキャッシュ・フロー	923	386
現金及び現金同等物に係る換算差額	-21	-6
現金及び現金同等物の増減額	356	-316
現金及び現金同等物の期首残高	827	1,261
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,183	946

※要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の当第3四半期、前第3四半期は億円未満を四捨五入しています。

当第3四半期末の現金及び現金同等物残高は1,183億円

当第3四半期の連結キャッシュ・フローは、営業活動は原油価格の下落等に伴いたな卸資産等が減少したものの、法人税等の支払いが負担となり、119億円マイナス。投資活動は、固定資産の取得による支出等により427億円のマイナス。財務活動は、運転資金の借入等により923億円のプラス。当第3四半期末の現金及び現金同等物残高は前期末(08年3月末)比356億円増の1,183億円となりました。

■ 原油コスト、処理量、稼働率、販売数量

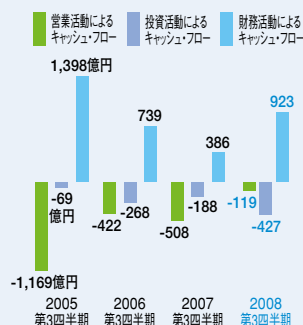
	単位	当第3四半期	前年同期比	
受入原油	原油(FOB)	(ドル/バレル)	101.28	29.27
	為替レート	(円/ドル)	104.66	-12.63
	受入原油代(税込)	(円/KL)	70,733	14,169
原油処理	原油処理量	(千KL)	20,428	-429
	トッパー稼働率	(CD%) ^{※1}	73.6	-1.6
	トッパー稼働率	(SD%) ^{※2}	86.9	-0.4

	単位	当第3四半期	前年同期比	
国内販売数量	ガソリン	(千KL)	4,904	93.0%
	灯油	(千KL)	1,520	93.9%
	軽油	(千KL)	3,593	97.9%
	A重油	(千KL)	1,868	96.8%
	4品計	(千KL)	11,885	95.2%
	内需燃料油計	(千KL)	18,929	91.9%
輸出数量	(千KL)	1,182	101.2%	
総販売数量	総販売数量	(千KL)	30,222	91.7%

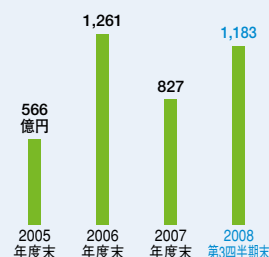
※1 CD%: 年間原油処理量÷トッパー能力÷365日

※2 SD%: 年間原油処理量÷トッパー能力÷実稼働日数

■ 活動別キャッシュ・フロー



■ 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高



動植物の生体内に含まれる天然アミノ酸 ALA(アラ)の大量生産に成功しました



社会に有用なバイオテクノロジー技術の一環として、
1980年代後半からALAの研究を推進。独自の発酵法によって、
世界で初めてALAの大量生産を可能にしました。

テレビCMなどで活躍しているALAのキャラクター「アラちゃん」。弱っている植物たちに魔法をかけて助けてあげる優しい性格です。

ALAは、すべての生物の体内に含まれる「5-アミノレブリン酸」というアミノ酸の略称です。植物の光合成を活性化させるなど、生物の成長促進に大きな役割を果たします。コスモ石油グループは、社会に有用なバイオテクノロジー技術の一環として、ALAの研究に取り組んできました。

ALAの存在や一部の効用は、従来から知られていましたが、人工的に化学合成で大量・高収率に生産することが困難な物質であったため高価な研究用試薬としてのみ使用されている貴重な物質でした。当社グループは、ブドウ糖を原料に、お酒やしょう油などと同じ微生物発酵法を使って、世界で初めてALAの大量生産を可能

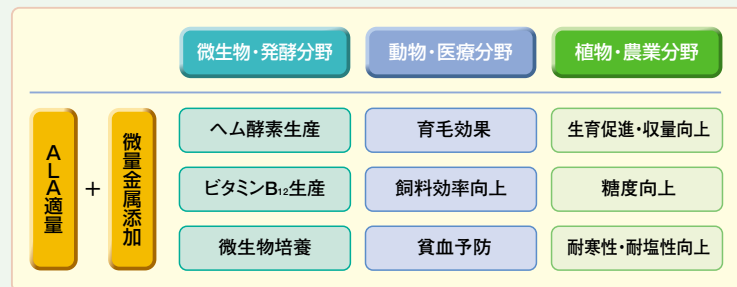
にし、2000年に製造方法の特許を取得しました。これにより、ALAの優れた効用を世界中で多くの方が利用できるようになります。

ALAに期待される効用としては、植物・農業分野における成長促進や収量・品質の向上、動物・医療分野では育毛効果や飼料効率向上、微生物・発酵分野では、ビタミンB₁₂生産など幅広い分野での利用が期待されています。

次号からは、世界の農業分野で活躍するALAについて、もう少し具体的にご紹介します。



■ALAを活用したコスモ石油での応用分野

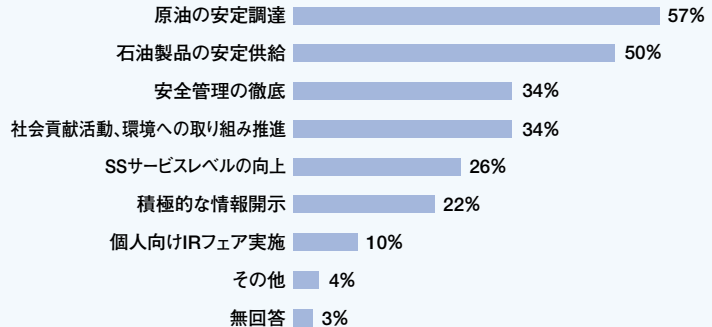


ALAの最適発酵条件の検討

皆様からいただいた ご質問にお答えいたします

シーズ・メール59号のアンケートに、約6,000通のご回答をいただき誠にありがとうございました。アンケートにおいて、ご質問が多かった項目につきまして、お答えさせていただきます。

■読者アンケート「当社への要望」の集計結果（複数回答）



▶ 石油製品販売事業の取り組み

Q

SSでのサービス向上はどんな事をしていますか。（44歳 男性）—他4名

A

『“ココロも満タンに”宣言 2009』を展開し、ブランド価値の向上を図っています。

当社グループは2007年度から、「お客様に満足していただけるSS」「勝ち残る競争力のあるSS」「社会の一員として責任あるSS」をめざして、『“ココロも満タンに”宣言』を展開し、コスモ石油ブランドの価値向上を図ってきました。また、お客様に満足していただけるSSであるために、3つの約束（1）コスモステーションでは、クリンナップの行き届いた店舗で笑顔と挨拶で応対しま

す。（2）コスモステーションでは、品質の確かな商品とサービスを提供します。（3）コスモステーションでは、お客様からのご質問に対し、責任を持ってお答えします。——を掲げています。2009年度も、『“ココロも満タンに”宣言 2009』を展開し、お客様との接点であるSSのサービスレベルの向上を図っていきます。



『“ココロも満タンに”宣言 2009』宣言書

『“ココロも満タンに”宣言』のURL：
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/mantan/index.html>

▶新規事業の取り組み

Q 石油事業以外はどんな取り組みがありますか。(27歳 男性) —他8名

A UAE政府系機関、東京工業大学と共同で集光太陽熱発電プロジェクトを推進。

UAE（アラブ首長国連邦）は国家方針として、化石燃料に代わる新エネルギーの研究開発を行うMASDAR（マスダール）イニシアティブを実施していますが、集光太陽熱発電技術は、この中でも最重要研究開発のひとつに位置づけられています。当社は、UAEのアブダビ政府系機関である

MASDAR—アブダビ・フューチャー・エナジー・カンパニー及び東京工業大学と共同で、集光太陽熱発電の技術開発に向けたプロジェクトを推進しています。当社にとって、このプロジェクトは将来への投資であり、今後の非石油事業のコアに成長する可能性を秘めています。



実証実験用の太陽光採光装置
(ヘリオスタット)

集光太陽熱実証実験プラントについてのリリース：
http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_081110/index.html

▶原油の自主開発の取り組み

Q 自主開発による原油の生産について知りたいのですが。(40歳 女性) —他3名

A 現状のアブダビ、カタールでの生産に加え、カタールの新鉱区での開発やオーストラリアでの新規探鉱により、自主開発原油比率の向上を図っています。

石油のほぼ全量を輸入に頼っている日本にとって、石油を安定供給するには産油国との信頼関係づく

りが重要です。当社グループは、40年以上の長期にわたり、中東諸国との技術交流を行うことなどで、原油の自主開発への道を切り拓いてきました。現在、アブダビではアブダビ石油（株）、合同石油開発（株）において、約36,000バレル/日の安定的な原油生産を続けています。カタールでは約6,300バレル/日を生産しており、さらに新鉱区での油田探鉱にも取り組んでいます。また、オーストラリアでの探鉱については2012年の生産開始をめざして準備を進めています。

■石油開発会社の生産数量

	2008年度第3四半期実績	当社グループの出資比率	当社との関係
アブダビ石油（株）	22,000（バレル/日）	63.0%	連結子会社
合同石油開発（株）	14,000（バレル/日）	35.0%	持分法適用関連会社
カタール石油開発（株）	6,300（バレル/日）	85.8%	連結子会社

※石油開発会社の期中平均生産量。※12月決算会社のため生産期間は1～9月。※2008年度第3四半期決算資料より。

ニュース・ヘッドライン

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と内容の一部をお知らせします。
詳細は当社のホームページからご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

2009年

2月6日 お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラム part2
～世界でたった1つのかたち～withノッポさん」仙台での開催のご報告 ③

1月21日 SS販売促進プログラム「“ココロも満タンに” 宣言 2009」について

1月19日 2009年度のコスモステーション新イメージキャラクターに加藤夏希を起用

1月6日 電気自動車（EV）用急速充電器の給油所への設置について ①

2008年

12月26日 長期入院中の子どもたちに励ましのメッセージを贈る
「コスモ・クリスマスカード・プロジェクト2008」実施のご報告

12月15日 「カレファックス・チャリティー・ジャズコンサート」と
「カレファックス・リード五重奏団来日公演」実施（協賛）のご報告

12月10日 コスモ アースコンシャス アクト 野口健 講演会 開催のご案内 ④

12月5日 「エコプロダクツ 2008」に出展 ②

12月1日 「横浜トリエンナーレ2008 キッズ・キュレーターズ プロジェクト」実施のご報告

12月1日 JHFC横浜・大黒水素ステーションで70MPa高圧充填実証を開始

11月25日 ALAを活用した育毛剤の共同事業契約を締結

11月21日 「第15回大阪ヨーロッパ映画祭 ～キnderフィルム特集～」特別協賛のご報告

11月20日 「ミュージシャンと音楽であそぼう！～ニューヨークからの贈りもの～」実施のご報告

11月19日 お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラムpart2
～世界でたった1つのかたち～ with ノッポさん」札幌での開催のご報告

11月17日 コスモ石油モバイルサイト 業界初、NTTドコモ、au、SoftBank、
3大キャリアでの公式コンテンツ加入のお知らせ

※ニュースの内容により色分けしています。 トピックス／CSR・環境／IR／社会貢献&メセナ活動

※上記の日付はプレスリリース日です。

1

電気自動車（EV）用の充電器をSSに設置します

社会の環境意識が高まる中、2009年度以降、電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド車の一般発売が予定されています。当社は、神奈川県が進めているEV充電インフラの整備（2010年度までに急速充電器30基設置）とEVの普及（2014年度までに県内3,000台の普及）に賛同し、2009年度中に神奈川県内3ヶ所のSS（サービスステーション）に、急速充電器を試験設置することを決定しました。これに合わせて、社有車としてEVを試験導入し、お客様視点にもとづいたEV向けサービスや利便性の向上に努めていきます。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_090106/index.html

2

「エコプロダクツ 2008」に出展しました

エコプロダクツ展は、東京ビッグサイトで開催される国内で最大規模の環境展示会です。当社は、2001年から継続的に出展し、環境への積極的な取り組みをご紹介してきました。2008年は、樹木や農作物の育成を促進するALAや、お客様とともに取り組んでいる「エコカード基金」による環境保全活動を中心に展示や講演会を行い、植物と地球環境の重要な関係についてお伝えしました。



エコプロダクツ展に出展した当社のブース

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_081205/index.html

3

「パパとキッズのアートプログラム part2 ~世界でたった1つのかたち~withノッポさん」を開催しました

当社は、父親の育児参加を応援することを目的に、2006年から「パパとキッズのアートプログラム」を継続的に開催してきました。2008年からはパート2として、幅広い世代に愛されている「ノッポさん」をナビゲーターにお迎えし、「世界でたった1つのかたち」を展開しています。2月1日には、仙台市博物館に25組のパパとキッズが集まり、第4回目を開催しました。お父さんと子どもたちは、それぞれのかたちを大きな紙に写

し取り、お互いを見つめながら、顔や服を描き込んで、等身大の分身をつくりました。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_090206/index.html



お父さんや子どもたちを指導するノッポさん

ニュース・ヘッドライン

4

コスモ アースコンシャス アクト 野口健 講演会を開催しました

当社は、持続可能な社会の実現をめざし様々な地球環境保護への対応を推進しており、TOKYO FM及びJFN加盟38局とともに地球環境保護と保全を呼びかけていく活動「コスモアースコンシャス アクト」を展開しています。その一環として、アルピニストの野口健さんをお迎えし、エベレスト清掃登山や希少自然保全活動をテーマに全国で講演会を開催しました。2009年2月～3月は全国6ヶ所で開催し、来場者の方々に環境保護の大切さについてご理解いただきました。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_081210/index.html

●野口健 講演会 開催地

2月1日	鳥取県
2月7日	愛知県
2月15日	徳島県
2月22日	東京都
3月1日	宮城県
3月8日	大分県



地球環境保護について講演するアルピニストの野口健さん

※講演会の一部はパソコンや携帯電話からご視聴いただけます。
パソコンURL：
<http://www.tfm.co.jp/earth/noguchi/>
携帯電話URL：
<http://cosmooil.co.jp>

コスモSS新店舗 オープン情報

今号から発行月近くにオープンしたサービスステーションをご紹介します。

“ココロも満タンに”の想いを込めたコスモ石油の新店舗ですので、お近くにお住まいの方はぜひご来店ください。



■1月オープン

- ◎セルフピュアあすみが丘SS 千葉県千葉市
- ◎セルフピュアベリーフィールドSS 千葉県白井市

■2月オープン

- ◎セルフステーション伊丹西SS 兵庫県伊丹市
- ◎セルフ天理SS 奈良県天理市

■3月オープン

- ◎小竹カーライフステーションSS 福岡県鞍手郡
- ◎ワンダフルセルフ西南部SS 石川県金沢市
- ◎セルフピュア大玉SS 福島県安達郡

※店舗の詳細は、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/open/index.html>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 支払株主確定日	3月31日
中間配当金 支払株主確定日	9月30日
1単元の株式の数	1,000株
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目 8番4号 中央三井信託銀行株式会社証券代行部
電話照会先	電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行の全国 各支店ならびに日本証券代行株式会 社の本店及び全国各支店で行って おります。
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができな い事故、その他やむをえない事由が 生じた場合は、日本経済新聞に掲載 します。 公告掲載URL http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html
上場取引所	東証一部・大証一部・名証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

Cover Story

カバーストーリー

オランダ

表紙イラスト 古田 忠男

表紙のイラストは、オランダの観光名所であるアムステルダム中央駅や風車、春を彩るチューリップなどをイメージしてデザインしました。当社グループでは、ALA 配合肥料「ペンタキープシリーズ」を国内や欧州で販売しています。特にオランダでは世界最大規模の農業展示会 Horti Fair においてテーマ賞大賞を受賞した実績もあり、高い評価をいただいております。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』61号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室
〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビルディング
TEL.(03)3798-3180 FAX.(03)3798-3841
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモの手紙)」の意味を込めました。株主の皆様へ、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。